

地図データ便利帳 2019

ゆきお
久保 幸夫

表1 国や自治体などが公開する位置情報を含むオープンデータの例

分類	例
国土・環境	山、河川、海岸線、森、などの国土に関する情報や基本的な地図情報など
気象情報	(ある地域の) 天気、気温、降水確率など
防災・防犯	避難所、避難場所、なだれや津波などの被災リスクの高い場所、交番、消防署、消火栓など
観光	観光施設、宿泊施設、市街、公園、テーマパーク、スポーツ(野球、サッカーなど)、公衆トイレ、無料Wi-Fiなど
医療	病院、診療所、救急センター、AEDなど
福祉	老人ホーム、介護施設など
交通	駅、バス停、駐車場、駐輪場の情報など
教育	小学校、中学校など
子育て	幼稚園、保育園、児童館など
文化	図書館、博物館、文化財、神社など
行政、手続き	役所、郵便局、投票所など

インターネット上には個人で利用できる地図、地形に関するデータが、国土地理院やグーグルなどから提供されています。

この地図/地形図に重ね合わせて表示することで新たな価値を創出できそうな「オープンデータ注1」が、国や自治体などから公開されています(表1)。

国が提供するデータは、国土や環境に関するもの、気象情報、全国的な防災情報などが多く、地方自治体では、地域の行政サービス、医療・福祉や防災情報など生活に密着したデータが多くあります。また、鉄道、バスなどの交通インフラのデータも多く公開されています。

地図オープンデータのフォーマットあれこれ

国や自治体が公開するオープンデータのフォーマットはさまざまです。

注1：本章は2017年10月号特集「IoTのための地図・地形・地球大集合」第3章「地図・地形・地球オープンデータ事典100」を、筆者：斉藤 直希氏の許可を得て大幅に加筆・修正したものです。

● 地理空間データ・フォーマット

表2(a)の地理空間データ・フォーマットは、地図や地理情報システム(GIS: Geographic Information System)の業界でよく使われています。中には国際規格や業界のデファクト・スタンダードなどがあり、データの流通や交換に使われています。

● 独自フォーマット

特定の規格や仕様にのっとったフォーマットではなく、その使用にはデータの構成を解析する必要があります。しかし、ファイル形式が表計算ソフトにおいて一般的なCSVファイルやExcelのファイルなどで作成されたものが多く、簡単に開いて、内容を確認できます[表2(b)]。

例えば公衆無線LANのアクセス・ポイントのデータは、複数の自治体が公開していますが、東京都港区の場合は、設置場所、アクセス・ポイント名、所在地、住所、経度、緯度、測地系の項目がコンマ区切りのCSVファイル形式で公開されています。

地図オープンデータのカタログ的なサイト

● 目的のデータを入手しやすいカタログ・サイト

インターネット上には、数多くのオープンデータがありますが、欲しいデータを見つけるには意外と手間がかかります。そこで、カタログ・サイトやポータル・サイトを使うと、手早く目的のデータを探し出せます。

カタログ・サイトには、単なるリンクの一覧だけではなく、データの内容やフォーマット形式などをキーにして検索できる便利なサイトも多くあります。このようなオープンデータのカタログ・サイトは、国の機関や地方自治体、社団法人やNPO法人などの非営利団体、民間企業が公開しています(表3)。

● 国が提供するもの

国の機関が提供しているサイトには、国土交通省や総務省などの省庁が提供しているものがあります。地